

# DRAWMER

## MQ=1

Equaliser FOR THE  
500 SERIES RACK SYSTEM

取扱説明書 Ver1.00



株式会社 サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3

TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222

<http://www.soundhouse.co.jp> [shop@soundhouse.co.jp](mailto:shop@soundhouse.co.jp)

## 安全に関する注意事項

### 注意

修理作業は行わないでください。すべての修理作業は有資格の担当者に依頼してください。

### 警告

火災または感電事故を防止するため、本機を雨や湿気にさらさないでください。

### 警告

本製品や他の 500 シリーズモジュールを取り付け／取り外しする前に、500 シリーズラックの電源を必ず切ってください。本製品はホットスワップに対応していません。電源を入れた状態で本製品を取り付け／取り外しすると本製品または他の機器に損傷を与えるおそれがあります。

製品開発のため、事前の通知なく、いつでも本製品の仕様を変更または改善することがあります。

## はじめに

この度は、DRAWMER MQ-1 をご購入いただき、誠にありがとうございます。MQ-1 は、1チャンネルの7バンド・プロポーションナル Q イコライザーです。本製品の性能を最大限に発揮させ、末永くお使いいただくため、ご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。



伝説的な「Motown EQ」から着想を得た MQ-1 は、1チャンネル7バンド、プロポーションナル Q イコライザーで、1960年代にデトロイトの名門スタジオで使用されていた著名な EQ に近いカーブ特性を備えています。このモノラルの100%アナログ EQ には7種類のベルカーブがあり、各バンドは±10dBのカット/ブーストを連続可変で調整できます。いずれも元機の美しく音楽的な周波数に設定されています。プロポーションナル Q 設計により、各バンドの帯域幅はゲインに応じて自動的に変化し、より直感的で音楽的な EQ 体験を実現します。

しかし、それだけではありません。MQ-1 を真に際立たせているのは、Drawmer 1971 にも搭載され高く評価されている「CRUSH」機能を採用している点です。クラッシュ回路を有効にすると、心地よい倍音サチュレーションと、ユニットを通過するあらゆる信号にキャラクターを与えるクラシックなアナログの温かみが出ます。結果として、低域に厚みが出て、

中域の存在感が増し、高域には心地よいきらめきが加わります。EQ を強くドライブするほど、CRUSH がより深く効きます。

## Drawmer MQ-1 主な特長

- ・ 500 シリーズ用 7 バンド・プロポーションアル Q イコライザー
- ・ 1960 年代の Motown EQ に着想
- ・ モノラル EQ、500 シリーズの 1 スロットを使用
- ・ 倍音サチュレーションでミックスを温かくする「CRUSH」機能を内蔵
- ・ カット/ブーストは最大 10dB まで連続可変
- ・ ハードワイヤード・バイパス
- ・ 英国で設計・製造

## 設置

MQ-1 は単体では動作しません。API 500 シリーズ互換ラックフレーム（別売）から供給される電源と、同ラックに備わるオーディオ端子が必要です。

### 500 シリーズ互換ラックへの MQ-1 の取り付け

作業を始める前に、500 シリーズラックの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。500 シリーズは「ホットスワップ」用に設計されていません。ホットスワップを行うと、本製品およびラック内の他の製品を損傷するおそれがあり、保証が無効になる場合があります。

MQ-1 を梱包から取り出したら、MQ-1、1 台につき空きスロットを 1 つ確保してください。

500 シリーズラックを上から覗き込み、MQ-1 のカードエッジコネクタがラックの EDAC タイプのコネクタと一致しているのを確認してください。次に、できるだけまっすぐな状態を保ちながら、完全に奥まで入るまで MQ-1 をやさしく押し込んでください。過度な力を加えないでください。

フロントパネルの 2 本のネジを締めてください。

背面に XLR ケーブルを接続し、ラックの電源を入れてください。MQ-1 は自動的に通電し、使用できる状態になります。

## オーディオ接続

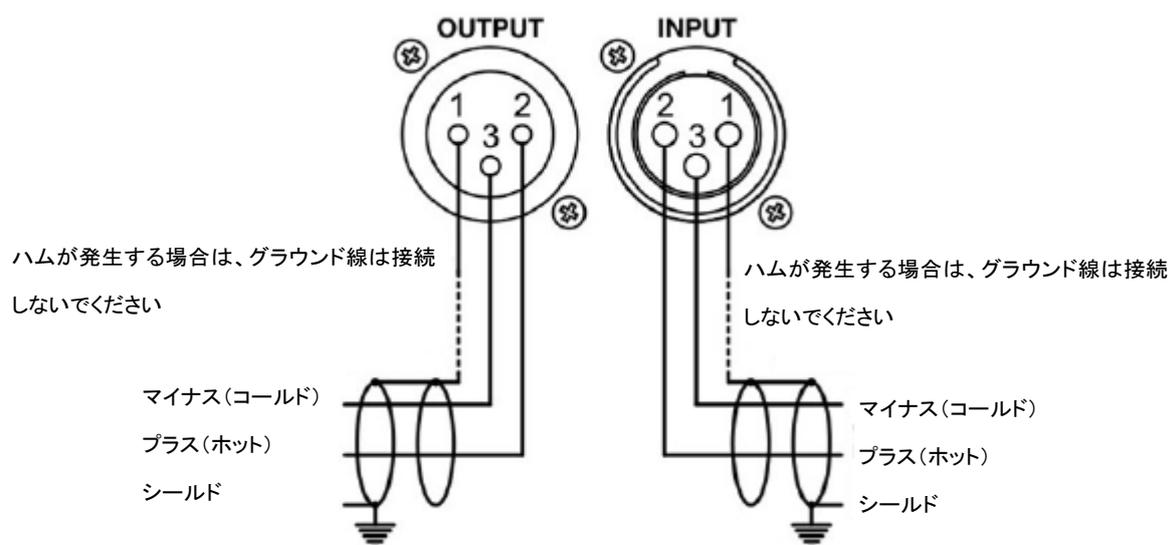
500 ラック背面の入力／出力は、一般的な配線の XLR で電子バランス接続になっています（1 番＝シールド、2 番＝ホット、3 番＝コールド、XLR シェルはシャーシに接続されています）。

バランス配線の使用を推奨します。

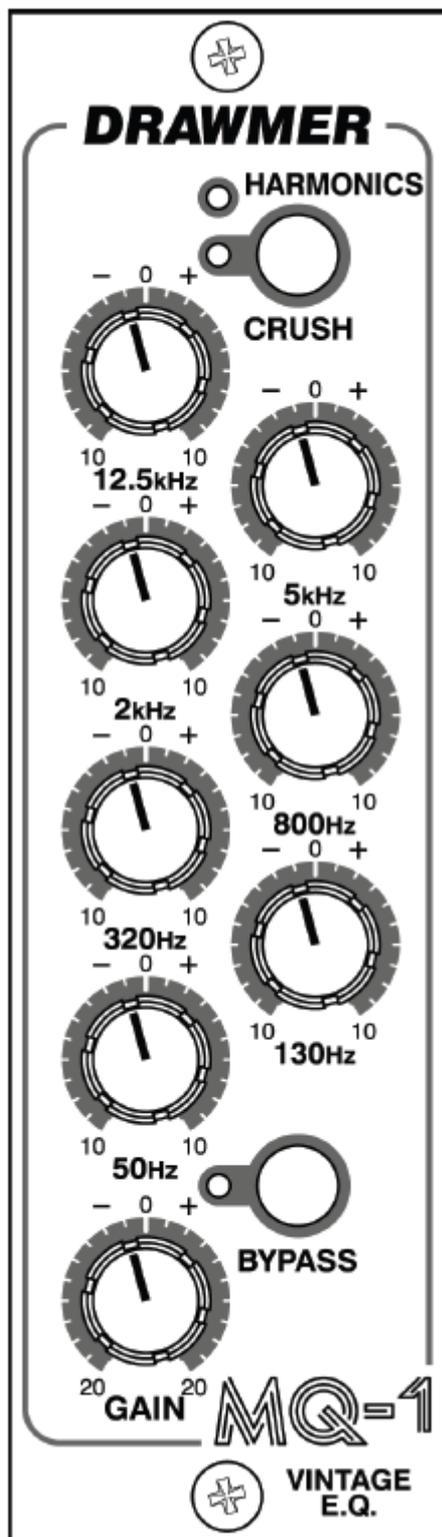
（詳細は、お使いの 500 シリーズのマニュアルを参照してください。）

## 出力／入力

グラウンド線は接続しないでください（グラウンド・ハムループが発生している場合）



## 各部の名称



### GAIN ゲイン +20 ~ -20dB

通常、この入力ゲインコントロールは、前段の機器／スロットの出力を、信号が通過する EQ バンドの入力要件に合わせるために使用します。

入力が低すぎる場合は、最適な出力レベルに到達するため、各 EQ バンドの信号をブーストする必要があります。入力が高すぎる場合は、クリッピングが発生するまでのヘッドルームが少なくなるため、各 EQ バンドのゲインを下げてください。

### BYPASS バイパススイッチ

バイパススイッチを有効にすると、入力信号は信号処理を行わずに出力へルーティングされます。A/B 比較に使用してください。

### CRUSH オン／オフ

固定のタイムコンスタントを追加し、オートゲイン・メイクアップ・コンプレッサーを動作させ、すべての EQ バンドに音楽的に心地よい倍音成分を加えます。CRUSH ボタンは、カットした周波数ではなくブーストした周波数に適用されるため、効果の出方は、周波数、適用したブースト量、さらに適用する楽器によって変化します。キック、タム、スネア、ベースギターなどリズムセクションの低域に使用すると、低域が厚くなります。中域ではミックスを温かくし、存在感を高めるのに役立ちます。

また、ギターに厚みを与えたり、パーカッションのアタックを強めたり、ピアノのアタックを増やしたりします。たとえばボーカルのかすれた質感を引き出すのにも役立ちます。高域ではシンバルのきらめきを引き出し、弦楽器の音をより明るくします。

効果は段階的に強くなるため、各バンドにブーストを加えるほど **CRUSH** 効果がよりはっきり現れます。さらに強い「クラッシュ」を得るために特定のバンドをより大きくブーストしたい場合は、ゲインコントロールを使用して全体レベルを下げ、信号がクリップしないようにしてください。スイッチで A/B 比較し、機能の効果を確認してください。

## HARMONICS ハーモニクス LED

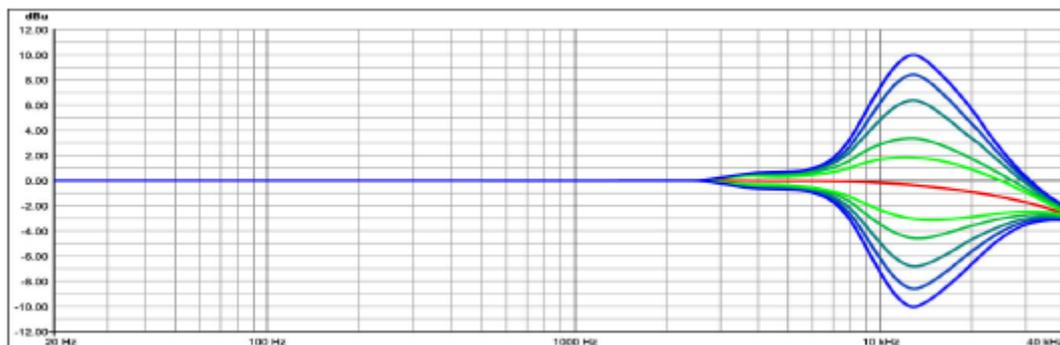
この LED は、現在のイコライザー設定で得られる倍音レベルを示します。これらの倍音は **CRUSH** コントロールで回路に追加／解除されます。LED は段階的に変化し、**EQ**／**CRUSH** を強くドライブするほど明るく点灯します。

## イコライザー +10 ~ -10dB

Motown スタジオで使用されていたオリジナル **EQ** の周波数に設定された、固定周波数のベルカーブコントロールを 7 つ備えています。各バンドは最大 10dB まで、広いカーブでカット／ブーストできます。

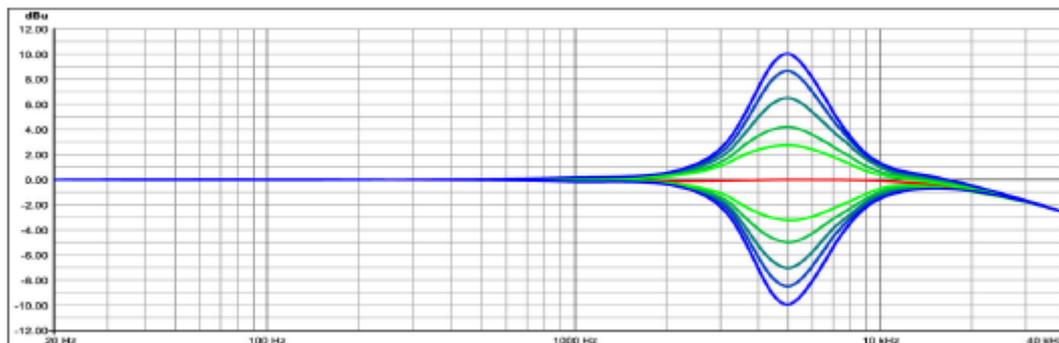
## 12.5 kHz ブリリアンス

この帯域は、きらびやかな質感を得たり、音にエアー感を加えたりするのに使用します。ただしブーストしすぎるとシビランスが強調され、耳が疲れやすくなります。



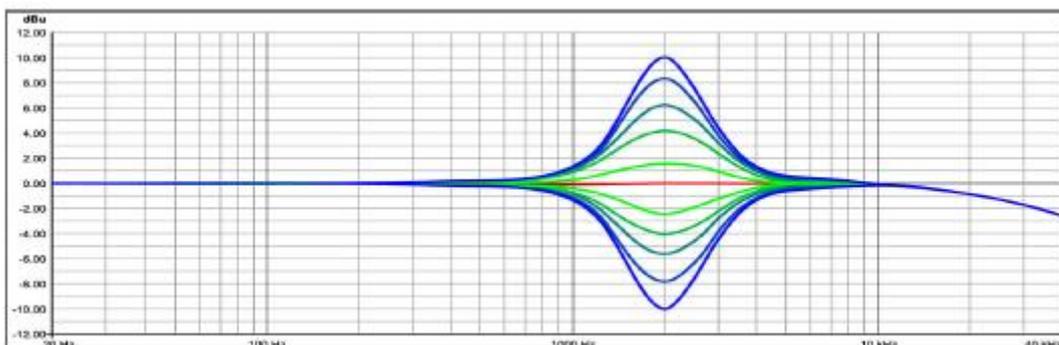
## 5 kHz プレゼンス

ブーストすると明瞭さが増し、信号にエッジが加わります。ただし上げすぎると音が刺激的になり、逆に下げると距離感のある印象になる場合があります。



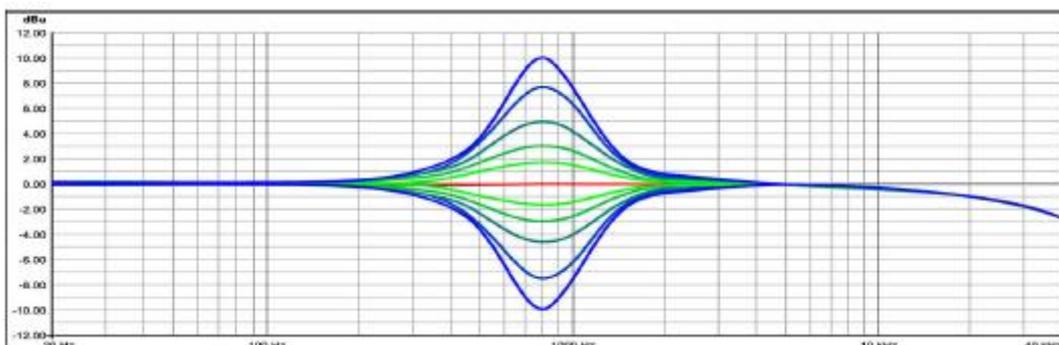
## 2 kHz アッパーミッドレンジ

この周波数は、打楽器のアタックの存在感と輪郭を強めたり、ザクツとした質感を加えたりするうえで重要です。ただしブーストしすぎると耳が疲れやすくなるため、控えめな調整がポイントです。



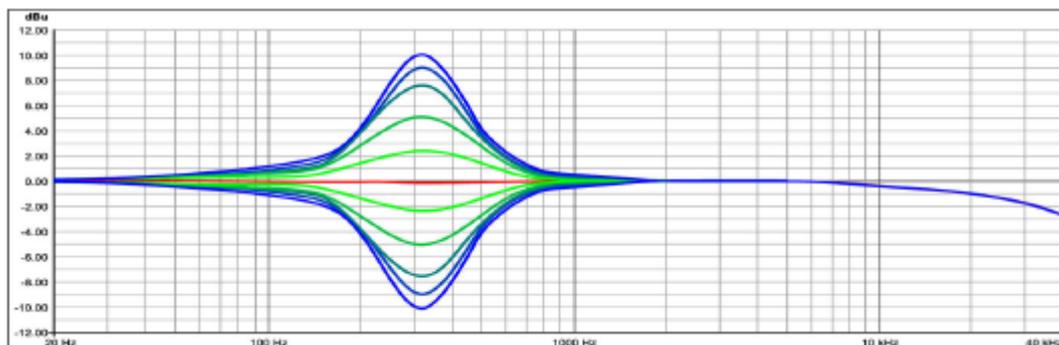
## 800 Hz ミッドレンジ

ブーストすると、ミックス内の各要素が見えやすくなります。ただし使いすぎると鼻にかかったような音になり、適切に調整しないと耳が疲れやすくなります。



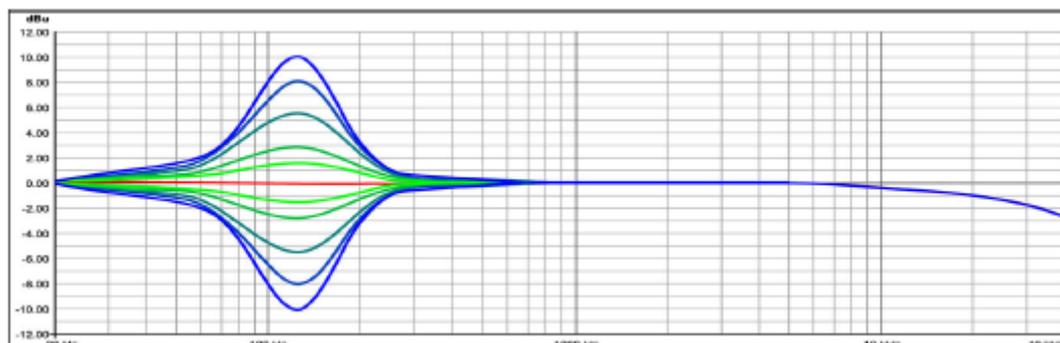
### 320 Hz ローミッドレンジ

この帯域は、低域の存在感、輪郭、厚みを加えるうえで重要です。上げすぎるとこもった音になり、下げすぎると中身が抜けた印象になります。



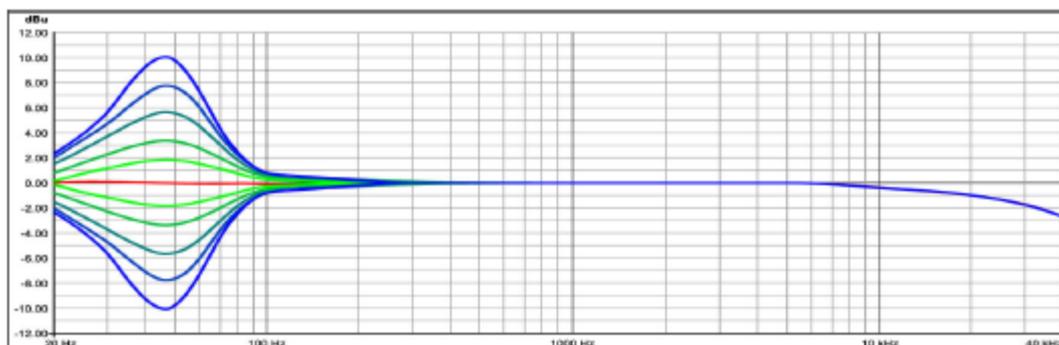
### 130 Hz ベース

この帯域をブーストすると温かみが増し、アタック感が強まって、より深い響きになります。ただし上げすぎると低域が膨らんだ音になり、逆に不足すると薄い音になります。

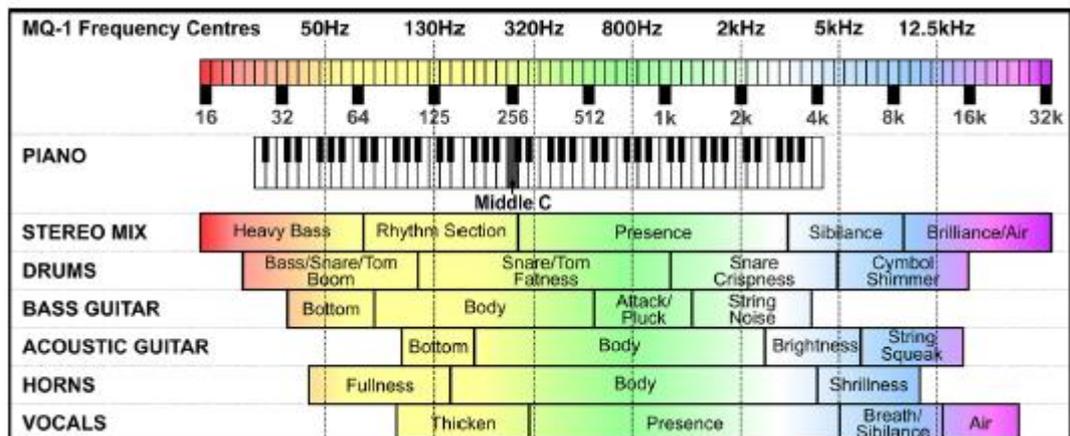


### 50 Hz サブベース

この周波数は、聴こえるというより体で感じやすく、重量感としっかりした土台を与えて胸に響くような低域になります。ただし低域のランブルも強調されやすいため、調整には注意してください。



有用な周波数



## 仕様

### 入力

入力インピーダンス 20k $\Omega$

最大入力レベル +21dB

### 出力

出力インピーダンス <100 $\Omega$

### 周波数特性

20Hz~20kHz  $\pm$ 0.5dB

%THD+ノイズ(@1kHz、0dBu 基準)

0.002%

ユニティゲイン時のノイズ(0dB 基準)

AV 20Hz~20kHz -93.5dB

### 寸法

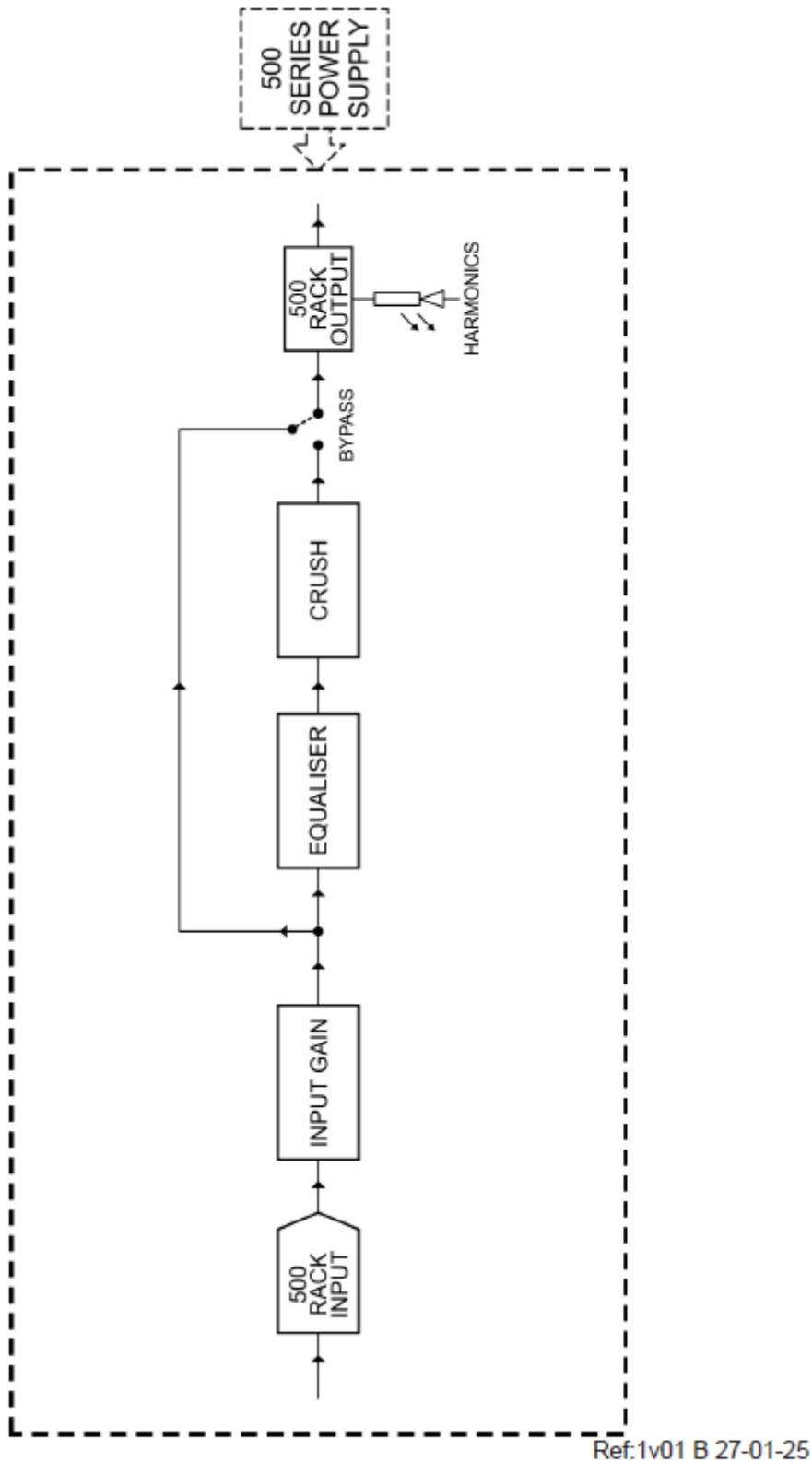
500 シリーズ 1 スロット

### 重量

0.38kg

# ブロックダイアグラム

## BLOCK DIAGRAM



セッション登録

<p><b>DRAWMER</b> <b>MQ-1</b> セッション登録</p>	
ラック構成	
セッション番号	
日付	
アーティスト	
テープ保管場所	